

## 令和4年度第2回三沢市中小企業振興会議議事録

1. 開催日時 令和4年7月27日（水） 10時00分～11時12分
2. 開催場所 三沢市役所 本館4階 大会議室
3. 出席者 前田会長、月舘委員、附田委員、片山委員、工藤委員、  
成田委員、内澤委員、田村委員、南委員、花田委員、  
稲川委員、鹿目委員、久保委員
4. 欠席者 奥崎委員、中村委員、保坂委員
5. 事務局 吉村経済部長、中村産業観光課長、石橋産業観光課長補佐、  
松橋産業支援係長、山内主査、平主事

### 6. 開催概要

#### ◎第2回振興会議

##### (1) 三沢市の現状分析について

- ・事務局より説明（資料1）

##### (2) その他

- ・事務局より説明（資料2）

## 7. 会議概要

### (1) 三沢市の現状分析について質疑応答

発 言 者	内 容
前 田 会 長	まず、案件（1）三沢市の現状分析について です。事務局より、説明をお願いします。
事 務 局	（事務局より案件1について説明）
前 田 会 長	ただいま事務局から説明がありましたが、皆様のご意見を伺いたいと思います。ご質問でも結構ですので、よろしくをお願いします。委員同士でマイクを用意しておりますが、マイクの手渡しはコロナの関係で禁止いたしますので、よろしくをお願いします。それでは、質問ご意見、皆さんの挙手をお願いします。
久 保 委 員	人口の減少についてだが、三沢市は少し自然増があるということになっている。人口が増えないのは、全国的な話だが、人口が増えない要因として、働くお母さんがとても大変なのではないかと思う。うちの会社にもいるが、働きながら仕事するのは大変。大変だと2人目、3人目っていうことを考えづらいのではないかと思う。なので、各企業で働くお母さんを応援するっていうこと、意味合いをもっと注視した方がいいのかなと思う。あと全国的に人口が増えないのは、過去の日本の歴史をみると、明治時代になってからとか戦後になってから人口が増えている。その時には、明るい未来が見えていたとか、なんかこうしたい、あーしたいとか見えてきたときに、子どもを作ろうっていう余裕が出てきたとかだと思う。それが今の世の中に将来を見通し明るい未来があるなっていうのがないので、子どもを増やそうっていうことにならないのではないかなと思う。それを考えて、三沢市で小さい規模からでいいので、子どもを作ることがすごく素晴らしいとかそういうことを考えられるような職場環境や教育とかっていうのがあったらいいなっていう風には考えている。具体的にどうしたらいいかっていうのは考えてないが、そういう風に思う。
前 田 会 長	ありがとうございます。今のはご意見でございました。その他何かないでしょうか。私の方から指名させてもらい

	<p>ますけど、よろしいでしょうか。それでは、まず初めに南委員よろしければ、意見でも質問でもよろしくお願ひいたします。</p>
南 委 員	<p>質問というか、思ったことが1点あって、資料2ページで自然動態の分析がされているが、出生数と死亡数2015年のあたりを境に死亡数が右肩上がり、逆に出生数が減少傾向という風に入れ替わっているが、ここの部分は何かしらの要因というか、そういったものは把握されているものなのか？もしあれば教えていただきたいなという風に思う。</p>
事 務 局	<p>平成26年から27年にかけて出生数がかくっと下がっているがこれはどういう要因なのかというご質問だが、社会動態と言えはそれとなく人の移動のことなので察しは付くが、自然動態に関しましてはこれといったデータを持っていないので、今後調査検討させていただく。</p>
前 田 会 長	<p>ということだそうです。ありがとうございます。続いて花田委員お願ひいたします。</p>
花 田 委 員	<p>人口の減というのが一番の原因というところだが、やはり増やすには何といても雇用の場を増やすのが大事なのではないかなと思う。何回か前のこの会議でもお話したが、大学生の6割以上が奨学金を受けて卒業する。卒業した後、その返済で大変だという話を聞いて、やはりそういった一部の補助というか助成金みたいなものがあれば、また我々企業としても若者を雇えるようなそんな話になるかなという風に思っていた。実は色々調べてみて県の方で若者定着のための奨学金の補助みたいなものがあつた。今年度から私の方も企業側と相手方の学生の方も同じ申請をしている。話を聞いたら3年継続して勤めた後に4分の1とか、あと半分というような、そういうのがあるということで、先日うちの会社もやった。そういったものを市の方でも色々考えて若い人たちに来ていただくという風なことを考えてみてはどうかなという風に思った。</p>
前 田 会 長	<p>ありがとうございます。続いて稲川委員お願ひいたします。</p>
稲 川 委 員	<p>事務局より細かい説明、資料を作ってくださいありがとうございます</p>

ございます。12 ページ、2045 年には三沢市の人口は 2 万 8 千人になるのではないかということだが、実際私 2011 年三沢青年会議所という団体の理事長を仰せつかっていて、2011 年と言うと震災の年だった。あの年よく皆さんの前で風化させてはいけないという話をしていた。当時三沢市の人口が 4 万 3 千人だったが、あれから 11 年経った今 2022 年、三沢市の人口は、3 万 8 千人とこの 11 年間で 5 千人が現実として人数が減ってしまった。震災当時、私はあの時の説明を、行方不明者を併せて 2 万人の方々がお亡くなりになり、三沢市に例えると人口の約半分がお亡くなりになったと言っていた。しかし、今 3 万 8 千人ということは半分以上が亡くなったというそういう語り継ぎをしていかなければならない。それぐらいの激しい現実だ。今朝、新型コロナウイルスによる日本人の死者数が昨日から今日になって 3 万 1 千人から 3 万 2 千人に到達してしまった。これも震災と掛けるわけではないが、3 万 8 千人の三沢市の人口に対すると三沢市の人口の 84%の方々がこの日本から減ってしまった。要は国力が下がった。これは青森県のみならず国として国力が下がるということで、非常に問題だなと感じていた。事務局の最後の方の説明でこのような会議体のように地域の関係者が話し合っただけで未来について手立てを打ち立てていくことが大事ということだが、このままどんどんどんどん人口が減っていくと地域の関係者自体も減ってしまうので、今の花田委員からありましたとおり、やっぱり各企業の体力をつけて、雇用する力、そして地元で仕事を創出する何かしら仕組みを作って、あとは若い子たちにこの三沢市で絶対最後まで住み暮らしたいという魅力をどんどん伸ばしていくことが大変大切だと思っている。ちょうど昨日、私三沢ロータリークラブの会員なのだが、高校生の子どもたちへ、1 年間に 24 万円の奨学金を与えている。そのお金を元に勉学、進学に励んでいただければ、もちろん東京とかに大学に行くのはいいが、いずれはこの三沢市に戻ってきていただいてこの三沢市の為に是非仕事をしてくださいと口酸っぱく言っている。昨日いた女

	<p>の子に、将来の夢は？と聞いたら婦人科の先生になりたいと、素晴らしい夢ですねと。是非その婦人科の医師になる夢を叶えて是非この三沢に戻ってきて、その力を活かして三沢市の為に役立ててくださいという話をしたばかりだった。とりとめのない意見だったが、そんな思いを皆様にお伝えしたかった。ありがとうございます。</p>
前田会長	<p>稲川委員ありがとうございました。今後大きな課題であります、人口減の増数化についてこれから皆さんで議論していきたいと思っております。続いて鹿目さん。</p>
鹿目委員	<p>まず1つ質問だが、人口減に対して、行政の方でいろいろと施策など、これまでやってこられたと思うが、ここは数値に対して何かしら多少のインパクトは出たなみたいな施策がこれまであったとしたら、そういうのは、とてもこれからの活動のヒントになると思うので是非数値の動きはどれくらいかっていうのは大小あるかとは思いますが、そういった施策があったら是非企業とか雇用の観点からあったら教えていただきたいと思った。個人的な意見としては、花田委員、稲川委員からもありましたとおり、雇用を生んでいくということがすごく大事だと思う。しかし、今企業とお話をしていると、募集を出しているがなかなか人が来ないという企業や人が辞めてしまう、というお話。やはり来てもらう受け皿をいかに整えるか、企業をしっかり磨いておくか、自分自身の会社も含めてすごく思うところではあるので、企業の課題がどこにあるのかっていうところも、この人口減という大きな課題に対して企業側あるいは戻ってくる若い子たち、学生だったりっていう課題とそれぞれもう少し課題が見えてくるとしっかりとした課題設定、施策を打っていけるのではないかなと過去の事例を含めて、もう少し情報があると有りがたいなという風に資料を拝見して思った。</p>
前田会長	<p>ありがとうございました。質問がありましたので、お答えお願いいたします。</p>
事務局	<p>ただ今の鹿目委員からのご意見やご質問について、インパクトがあった施策という風なことで、まず一つ目のご意見</p>

	<p>ご質問だったが、施策に対して干渉している。それがおそらく最終的に反映されるものが人口なんだろうという風に思っている。なので、施策を打った結果、件数が上がり、その効果がこういう風に出て、さらに人口が最終的にこうなったというようなところになってくると思っている。その人口面での反映という風になると具体的に細かに検証しているわけではないが、つい先週の東奥日報の記事で、県内の40市町村の高齢化率が出ていた。1位が今別町55.6%だったが、三沢市は40市町村中、最下位で1番良かったという風になるが、26%となっている。残念ながら、人口構造上、全国多くの地域で減っていくことが、前提となっているのが現状。それがいくらかでも緩やかになっていただき、もっと欲を言えば好転していただきたいという思いはあるが、結果としてそれが緩やかになっているのであろうという風なところまでしかない。青森県自体が全国に比べて数字自体がよくはないが、一応県内の中では、良い方に入っている。おそらく三沢市の人口の転出入だとかそれに伴う出生数の多さだとかそういったものにグラフ落ちされているのだらうという風なところまでは考えが及んでいる。今後ご意見踏まえまして、この施策が人口のこの数字に反映されたという具体的なところは引き続き調査検討させていただきたいなという風に思っている。</p>
前田会長	<p>ありがとうございます。鹿目さんよろしいでしょうか。続いて久保さん、一言あれば。</p>
久保委員	<p>今の高齢化率、三沢市が一番低いっていうのは検証したわけではないが、介護の仕事をしているので、高齢化率が一番低いのが三沢市なのは分かってはいた。おそらく自衛隊の方が三沢にいてその親が三沢にいないので人口の割には高齢化率が低いっていう状態になっているかという風には考えている。なので、自衛隊がなければ高齢化率は他の市町村と同じぐらいではないかという風に考えていた。</p>
前田会長	<p>ありがとうございます。続いて月舘委員、お願いします。</p>
月舘委員	<p>三沢市の現状分析についての資料興味深く拝見させていただいた。根幹は、地域人口の減少が最大の反響かなと思っ</p>

	<p>ている。特に地方が顕著かなと推測するところである。したがって当然ながら人口が減れば働き手も減る。このままであれば、23 ページに出てきてあるように負のスパイラル、まさにそのとおりの状況が続くであろう。なので、とりあえず地域としてできることを我々中小企業振興会議の中で検討した対策を反映できるような運営をしていければいいのかなと思っていた。私個人の意見だが、地方という観点から、青森県強いて言えば県南地域、青森市を中心とした東青地域、津軽地域という県内3分割じゃないが、青森県においても特性が違ふと思うので、できる限りそういった観点・視点を持った統計も是非欲しいなと思っていた。なぜなら県南地域は、交通アクセスとかいろんな状況を受けやすいという部分もあるから。前も一応意見として言ったが、雇用の創出に関しては広域での連携を是非進めていければなという思いを改めて持ったので、私の意見として述べさせていただいた。</p>
前 田 会 長	<p>月舘委員ありがとうございました。続いて附田委員。</p>
附 田 委 員	<p>このデータを過去に見たことがあった。まず人口減少が全国的な問題で、都市圏でも減少しているところはあるとは思いますが、まず3点。まず人口減少を前提とした政策を今後とっていくのか、またそれにあわせて人口増加に対しての政策をとっていくのか、あとは企業の生産性をどのように考えていくのか、を産業面では捉えていかなければならないなと思った。そのまえに行政として人口減少を前提とした政策、人口増加に対しての政策、まちづくり、インフラ、あとは住みやすい環境、ソフト面、保障・補助金関係、今後どのような政策をとっていくかで大きく変わっていくような気がするが、いかがか。</p>
前 田 委 員	<p>今日、部長が見えてました。吉村部長答えられる範囲でお願いします。</p>
吉 村 部 長	<p>人口増に対する施策、人口減を前提とした施策、ということだが、三沢市に関して言えば、人口増に向けてこれまでも計画的にやってきてはいるが、公園整備とか生活環境の整備というのを重点的にやっている。それに伴い、評価と</p>

	<p>しては、住みよい街っていう評価の中で三沢市は結構良い評価を得ている。しかし、それが人口増に繋がっているかという全体として見れば減少傾向ってというのはどうしても否めないところで、それが今度はもっと増加につながるような方法ってどういったものがあるかっていうのはこれから検討の余地があるところだと思う。それから人口が減少した社会に対しての対応ってというのは、今度疎かになってしまうのは福祉とかそういった分野に関わってくるところだと思うが、今そこはだんだんと各担当で色々考えてきてはいる。しかし、やはりそれも効果が今表れているかというところとちょっとなかなか難しいところでは三沢に限らず全国的に同じような問題を抱えているところだと思う。そしてさっき最後におっしゃっていた企業の話だが、そこら辺は、この会議をとおして是非三沢市としての何か特徴を出せないかっていうことで今お願いしているところなので、是非皆さんからの意見を募っていきたいという風に思っている。</p>
<p>前 田 会 長</p>	<p>ありがとうございました。附田委員よろしいですか。それでは、片山委員お願いします。</p>
<p>片 山 委 員</p>	<p>今回の資料を拝見させていただいて、12 ページになるが、人口が減少するというのは紛れもない事実だが、青森県と比較をしたときに私がちょっと意外だったのは、青森県の人口の減少が 2045 年には 63%ということで、三沢市の方が人口の減少率がそれほど比較したときに落ち込みが少ないというのが数値上出ている。生産年齢も同じような状況で、多少楽観的な言い方をすると青森県の中では、まだ三沢市のポテンシャルというか、もしかしたら近隣とか他の地域の方がもっと切実な状況なのかもしれない。それを考えると、もしかしたら他の近隣の市町村が三沢市に行政サービスを頼る可能性があるのかなということで、やはり三沢市がこの地域の核となる自治体であるということを裏付けているのではないかと考えている。また、先ほど月舘委員からもお話が出ていたが、三沢市単独だけでなかなかこの問題ってというのは解決できないものがあり、おそらく東北町</p>



	<p>とか七戸町の今後の動向を踏まえて、近隣の住民の方々がどのような行政のサービス、どのような街づくりを求めているのかということに、三沢市が魅力あるところがあるとまた人口の方もこちらに流れ込んでくるのではないかなという想像をしている。その中で、産業面において、やはりデータでも出ていたが、三沢市に集積している食品関係の製造業、私なりに製造業の波及効果というのをちょっと重く感じていて、従業員の数だとか、また様々な波及効果、建設関係における恩恵だとか、また技術面や製造業の集積というのはその立地されている自治体に大きな影響があるのかなということで、今後こう言った食品関係の製造業が集積できるような策っていうのも何か目玉にして進めていただければと思う。特に三沢には長いもとか農産物・海産物があるので、そういったものを加工して付加価値をこの地域で捻出して、県外に販売して外貨を獲得するという仕組みがよりいっそう加速していければと思う。</p>
前 田 会 長	<p>片山委員ありがとうございました。続いて工藤委員お願いします。</p>
工 藤 委 員	<p>うちの組合の方で、今年の春にこういう風な形で研修したのがありまして、それがちょっと参考になればということでちょっとお話したいと思う。ある証券会社で作ったデータだが、三沢市の現状について書いていたのでちょっとお話したいと思う。皆さんご存じの通り、三沢市の人口は、3万9千人で全国1,916の中で806位という順位となっている。人口増加率が2015年から2020年の間で-2.53%。これは全国で220位という結果が出ていた。その中で三沢市においては、自主財源力が弱い、産業就業率は高いが、商業圏として弱め、現役の婚姻件数は非常に多く、出生力が強め、その中で移行も突出して多いということが出ている。先ほどもお話があったが、高齢指数は低いという数字が出ていた。その中で最終的に今後は街づくりと婚姻に見合う出生力の強化がカギというデータがあるので、皆さんに報告しておく。</p>
前 田 会 長	<p>ありがとうございました。成田委員お願いします。</p>

成田委員	<p>人口動態の件ということで、日本の人口構造的な問題で少子高齢化というやむを得ない中、資料をみると三沢市は県内の中でも自然動態に関しては断トツの1位ということは、多分、市の施策の効果なのかなということで、さすが三沢市だなというのが直観である。もう一つ社会動態というところで、こちらに関しては、県内10市の中で流出超過が最も高いという数字となっているが、令和元年10月から令和2年9月までということで、一定数コロナの影響というか本来転入してくるような方たちも県外をまたぐ制限等そういった影響もこの半年くらいこの計測期間にあるのかなというところで顕著に大きく数字に出てしまっていたので、そういうところも一因に入っているのかなと感じた。あと出生数であったり、死亡数であったりってところは避けられないとは思っているので、その企業の誘致とかあとは働き手であったり様々やっているとは思いますが、引き続きそういった形で施策推進してやっていくしかないのかなと感じている。あと保証協会は、中小企業者に対する補償が業務のメインになるのだが、うちの方のデータというかその中で、昨年度、今年度4月、6月までの推移をみると三沢市は融資保証というところでいくと割と低調という形。なんで低調なのかということでヒアリングをしていくと、まだまだ元気だということで、資金需要が必要ないというか、借入する必要がないということで、いい話での低調ということだった。市の方でも小口制度だったり、活性化制度だったり、データを見れば分かると思うが、ちょっと低調というところである。企業が元気だということでの低調という分析をしていた。</p>
前田委員	<p>ありがとうございました。ただいま、成田委員の方から説明がありました。三沢市内の企業はまだまだ元気だそうです。夢がありますよね。続いて、内澤委員お願いします。</p>
内澤委員	<p>人口については、三沢市のみだけではなく、どこの市町村でも影響があるとは思いますが、弊社の工場の従業員の状況を考えてみると、若い方で家を建てる方も結構いるが、家を建てるとなると隣のおいらせ町を選ぶという方が非常に多</p>

	<p>いのかなという風にちょっと実感はしている。結婚についても世の中便利になりすぎたのか分からないが、昔に比べると結婚する人も減っているという状況が見えるので、三沢市に住むとこういういいことがあるよというような対策を立てていけば、ある程度は人を確保できるのかなという個人的な考えだが思っている。</p>
前 田 会 長	<p>ありがとうございました。それでは委員の最後になりましたけれども田村委員お願いいたします。</p>
田 村 委 員	<p>今日の資料拝見させていただきまして、高齢者である程度の年齢で寿命を迎えるということ、自然減というのはある意味、やむを得ないことだと思ふ。社会減の中で若い人たちが県外・市外へ流出してしまうという、その受け皿になっているのが私の職場になるのかもしれない。本学の場合だが、今の学生の動向をみるとだいたい60%ぐらいが、日本学生支援機構の奨学金を借り入れている。月12万円借りると、2年間で48ヶ月ですから576万円プラス利子と、だいたい600万円の負債を大学卒業時に抱えている状況でもある。特に学生の就職の選択と言うと都会もそうだが、やはり求人票の給料が高いところを選びやすい。全国一律20年の返還だとすれば、だいたい8千円～9千円ぐらい毎月奨学金を返さなければいけないという仕組みになっているらしいが、やはり給料が安いとそこから引き落とされる8千、9千円というのは非常に大きい。なので、都会の方が給料が高いが、その分物価水準が高いというのを考えずに目先の給料の高さを意識して、都会にあるから何でも物があるだろう、便利だろう、欲しいものがあるとか、仕事とレジャーを両立させようという風なことは、学生の選択肢としては、非常に大きいかなと思っている。私、実はこっちの方に住民票がなくて秋田県の北秋田にあるのだが、北秋田市で若者の定住を推進するために、奨学金の月々の半額の1万5千円だとすれば7千5百円が税金から控除される。ただし5年以上住むことというそういう表現があるわけだが。そういう奨学金をあてにする学生というのは、これから多分どんどん増えてくるかということを考えると、やは</p>

	<p>り給料を上げるというのは、企業の努力というのが非常に大きいと思う。家庭の事情とかで大学に進学し、それによって奨学金をお借りし、そちらの方を行政の方からの若干の補助でも、先ほどの花田委員もおっしゃっていたが、そういったところで若者に対して、特に給与所得の低い者に対して補助金を差し伸べるというか、非常に有効なのではないかなという風に考えて、お話を聞いていた。あと三沢市の場合だが、15 ページをみると、宿泊サービス業が 11.9、あとは娯楽業とそういった部分が非常に多い。言ってしまうと、今回このコロナで社会的に人が動かないということになると、1 番影響を受けやすい業種が非常に多いという特徴がある。しかし、比較したのが青森県とか全国と比較しているので、青森県全体となると県の平均で、外ヶ浜とか野辺地町とか平内とかそういうところも含まれてしまうので、比較対象として同じような人口規模の 3 万 9 千人だとすれば、人口規模がどうなっているか分からないが、黒石市とか五所川原とかその辺のもう少し別の近いところと比較した方が分かりやすかったのではなかろうかと思う。</p>
前 田 会 長	<p>田村委員ありがとうございました。それでは案件 1 に対してその他何かありませんか。ないようでございますが、実は今日、東北経済産業省のオブザーバーとして皆の意見をずっと聞いたと思いますけど一言二言お願いします。</p>
秋 元 オブザーバー	<p>今日お配りしている資料 1 というのは、三沢市の現状を把握するデータということでとりまとめるにあたって、国の方でリーサスというカタカナであったり、ローマ数字で書くいわゆるビックデータをまとめたものがあるが、これをいろいろ料理して三沢として抜き出したものがこの資料のベースになっている。第 4 期に入るにあたって、ちょっと時間が経っておりますので、新しい数字、中身にリバイスのかけたというものになる。人口の数字については、市役所が常に把握されているので、前半部分の 12 ページまでの部分については、ほぼほぼ令和の数字が入ってきている。一方で 13 ページ以降の産業面の部分については、経済センサスといった統計の調査の確定した数字がビックデータの</p>

中に入ってきて、初めて使えるということになるので、今日のこの段階ではご覧のとおりコロナの前の数字にならざるを得ないというところにつきましては、ご了承いただければと思う。そういう目線を見たとき、14 ページ・15 ページのところでは三沢市の産業構造として事業所という点で言うと、飲食とか宿泊のサービス業の存在感が結構大きい。逆に15 ページ、従業者数の点で言うと2 番目に製造業が来て宿泊業、飲食が3 番目に来るということは比較的の小規模な事業所さんが多いのかなという印象も受けている。2 年間コロナの影響で、全部の産業が影響を受けているが、人が動かないというところで、ここが影響を受けているのかなという風な印象を受けている。アフターコロナというところを見据えた一方で、飲食とか宿泊と言うのは、三沢に人が来ていただく大きな要因ではあるので、ここは引き続きある意味言葉は悪いが、育てていくというか元気になっていただかなければいけない。しかし、なかなか人が戻り切れないとか非対面とか非接触っていうのがある程度、当たり前になりつつある中で人に来ていただくことで成り立つこういった産業の部分っていうのをどうやって盛り上げていくのか、コロナの後でどうするのかというところがちょっと気になった。また、食料品製造業の事業所数あるいは付加価値額というところでも三沢の中では、存在感が非常に大きいので、先ほど片山委員が仰っていた外に売っていくとかどのくらい返ってくるか分からないが、インバウンドがこの県内地域に戻ってきたときに彼らに対しても魅力を打ち出していくというところが必要になってくるのかなという風に感じた。あとは、前半の人口の部分になるが、私もこの資料を見ていて、三沢は人口の規模の割には、割と移入が多いと思った。八戸とか十和田に挟まれている割には、逆に三沢の方に昼間に人が来ているという状況を感じている。一方で3 ページをみると、三沢市としては自然減が非常に緩やかで高齢化率も低いというところだが、3 ページを見ると近隣の八戸とか十和田は三沢以上に自然減が起きている。このことから、この9 ページの通勤者ってい

	<p>うところは、後々影響が出てくるのではないかなと思う。要は先ほど人手不足が相変わらず深刻という風なご意見があったが、まさにこう言ったところで市内だけでは人手が確保できない、でも近隣からはもっと人がいないみたいな状況で、市の事業所の事業活動の基盤みたいなところに影響が出てくるのではないかなと思った。あるいはもう一つ、近隣の人口減の影響を受けて三沢市内の事業所が広域で活動するという部分について、いわゆるお客さんが減っていくという状況にもこれから見えてくるのかなという風な印象を抱いた。なので、今日の議論で色々ご指摘あったが、三沢としてどうしていくかということと同時並行で広域的に見てこれだけ日常的に人の通勤者をはじめとして人が行き来するという中であって、近隣との連携みたいなところも将来的には必要になってくるのではないかと思った。少ない人口の範囲の奪い合いではないが、ある種そういう面も出てくるのではないかと思う。良い人材を採るという意味ではそういう意味合いも出てくると思うので、他の状況も知りつつ三沢としてもみたいなところは、今後第4期の中で提言としてまとめていくことになるのかなという風な印象を受けた。</p>
前田会長	<p>ありがとうございました。それでは案件1は以上といたします。またのちの機会に伺いたいと思います。続いて、案件2その他について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>事務局説明</p>
前田会長	<p>ありがとうございました。我々の大きな目的でもありました、市議会との意見交換会、今説明したとおり、これに対しましてなにか質問ございましたら挙手をお願いします。これから1月までの予定ということで、後日、皆さんに意見書が配られると思います。</p>
月舘委員	<p>大体想定はどのくらいの時間で終了するのか？</p>
事務局	<p>意見交換の所用時間ということでよいか？おおむね1時間半から2時間程度で今年1月にやる予定。おそらくそこから大きくずれるということはないと思う。</p>
前田会長	<p>2時間？</p>

事務局	この会議の時間くらいになるかと思っている。
月館委員	議員の皆さんは、振興会議の中身をどの程度まで把握しているのか？
事務局	前回やる予定だった際にも、議員の皆様には議会事務局の方から説明させていただいている。なので、全く知らないということは一切ない。ただ会の恰好上おそらくだが、冒頭部分に会長の挨拶を終えた後、当会議の概要という風な形か何らかの形でご説明をすることになるかとは思う。ただ全く知らないということはない。
前田会長	その他何かありませんか？せつかくの機会だから今のうちに議会事務局の方にもお願いすることがあれば。すごく大事な2時間だと思います。三沢市中小企業振興会議の中でも大事な懇談会だと思うんですが。
附田委員	市議会議員の対象は、全議員か？
事務局	はい、全議員の予定です。ただ、その日に出席可能な議員となるが、基本的に全議員という風に認識している。
前田会長	今回はどうか分からないが、前回、私が聞いた範囲では、中小企業の委員の方々が論客者ばかりで、恥をかきたくないで行かないと言っている人もいると聞いた。それはどうなのか？噂だけか？
事務局	この場での答えは差し控えるが、とりあえずそういったことは聞いていない。
前田会長	ではよろしくお願ひしたいと思います。その他ないでしょうか。それでは最後になりましたけれども、まだ多少時間がありますので、第2回会議の総評ということで、吉村部長に一言。
吉村部長	今日はコロナが蔓延している中、皆様に無理いってお集まりいただきまして大変ありがとうございました。今日事務局の方から説明した三沢市の現状分析というのは、これからの会議の中のベースになってくる部分だと思うので、もし持ち帰って不明な部分とか確認したい部分とかありましたら是非事務局の方にお問い合わせください。話の中で社会減の中で若い人達の流出が大きいっていう話が出ていたが、そこは高等教育機関が三沢市にないというところが1

	<p>番大きいと思う。だんだんと高校、大学、それから専門学校等への進学率が上がっていて、それを契機にして三沢から離れるという若い人たちが多くなっている。類まれず、うちの子どもも3人いるが、3人とも高校を卒業と同時に進学という名のもとに、仙台圏、そして東京、関東圏へ移ってしまい、向こうに居を構えるような状況となっている。できればそこを打開する方法があれば三沢市としては大きな人口減を食い止めることができるというところではあるが、なかなか今の情勢からいってそれは非常に難しいところだと思う。それを別として、今後の話し合いの中では、ぜひそのいったん出た若い人たちが戻ってくるそういった方法を何か模索できればなと思う。ある程度市としてもそれぞれの立場のもとに可能かどうか考えてはいるが、結果としてこの分析の中にも表れているようになかなかそれが結果として出ていない。もし中小企業の振興という中でそういったところ、何か意見を頂ければ今後大変いい方向に向かっていけると思う。ひいては中小企業の振興にもつながっていくと思うので、是非今後ともよろしくお願いしたいと思う。今日はどうもありがとうございました。</p>
前 田 会 長	<p>吉村部長ありがとうございました。それでは第2回中小振興会議ですけれどもこれをもちまして全議案無事、皆様のご協力で終わることができました。本日は誠にありがとうございました。</p>